

日本人におけるPCI後のDAPT療法を、 正しく理解し実践する

日時 2024年10月9日（水） 19:00～20:30

参加方法 CVIT HP <http://www.cvit.jp/>

座長 木村 剛 先生 枚方公済病院
夏秋 政浩 先生 佐賀大学医学部

演者 渡部 宏俊 先生 枚方公済病院
伊澤 毅 先生 仙台厚生病院
山本 航 先生 小倉記念病院

Panelist 道明 武範 先生 小倉記念病院

PCIを行った患者さんの退院後、出血イベントは2年で13%の死亡を引き起こすというデータが発表されており、頭蓋内出血等の合併症はPCIを行う医師にとって大きな課題であります。PCI後の出血リスクが高いと報告されている日本人の患者さんを対象に10年以上至適なDAPT期間が探求されてきており、ESC 2024 ではSTOPDAPT-3試験の1年結果が発表されました。今回の最新データとこれまでのSTOPDAPT試験シリーズを基に振り返り、これらの結果をどう解釈するか、そして明日からの日常臨床に対しどのように応用できるかを先生方にご解説いただきます。